第Ⅳ部門　　健康まちづくりにおける将来ライフスタイル像

関西大学大学院　学生員　○北村　良太
関西大学　非会員　坂東　正基
関西大学　正会員　北詰　恵一

1. はじめに

日本では超高齢社会となり，今後さらに高齢化率が上昇し，20年後には高齢者が人口の約3分の1を占め，14歳以下の子供は現在の約3分の2まで減少[1)]するとされている．それに伴い，社会保障費の増加など財政関係の問題だけでなく，高齢者の増加による健康問題も増加することが予測できる．最近では生活習慣病の患者の増加が問題視されているが，患者が増加する一方で医療従事者数は不足することが考えられるため，これらの対策が必要となってくるほか，国民一人ひとりが健康に対する意識を高め，自身の健康管理を行うことが期待される．それに加えて，インフラの老朽化や地球環境問題といった異分野の課題が山積みであり，それらの問題が同時に進んでいくことで，問題が複雑化してしまう．また，高齢化現象に伴って交通手段・医療需要・住居・就業など，人々のライフスタイルも大きく変化することが考えられる．このように，社会的・環境的課題を考慮しつつ，ライフスタイルの変化に対応していかなければならない．

2. 目的

本研究では，健康まちづくりが行われたまちに住む人々が健康で楽しく・健やかに過ごせることを目指している．国民は社会的・環境的課題などを踏まえて，ライフスタイルの将来像を見出す必要があると考える．しかしながら，その将来像は必ずしも明確でないのが現状である．そこで，これまでの研究成果をもとに人々のライフスタイルを「健康」という視点からのアプローチで予測・分析し，国民が踏まえるべき将来ライフスタイル像を明らかにすることを目的とする．また本研究では，将来ライフスタイル像の提案に向け，フューチャーデザインセンターの考え方を擬似的に取り入れ，将来ライフスタイル像を明らかにしていくこととする．

3. フューチャーデザインセンターについて

フューチャーデザインセンターとは，北欧で知的資本経営から生まれた「未来の価値を生み出すセンター」である[2)]．このセンターでは，1つの議題に関して，様々な分野の専門家を招き，各々の分野の将来像を話し合うことで，様々な角度や視点からのアプローチを可能とする．人々の生活は多くの要素から成り立っており，将来像を分析するうえでフューチャーデザインセンターの考え方を取り入れることは非常に有効である．

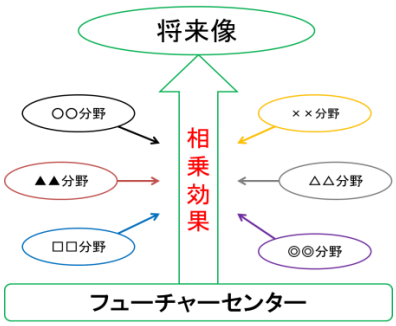

図1 フューチャーデザインセンターの仕組み

4. ライフスタイルに必要な分野の課題と予測

人々のライフスタイルに必要となる要素を「2030年超高齢化社会(著：東京大学)」を参考として抽出した．また抽出した要素を，国土形成，産業育成，健康・保険・福祉，食・農林水産の4つの分野に整理した．この4つの分野にはそれぞれ国土交通省，経済産業省，厚生労働省，農林水産省を割り当てることができる．ただ，それぞれに割り当ててみると，食・農林水産の分野にあてはめることができる要素が不十分であるため，新たに「食料自給率」，「食の健康問題」．「6次産業化」を加え，産業育成分野には「ICTの進歩」を加えることとした．これらは，農林水産省，経済産業省の最新の白書でも取り上げられており，人々のライフスタイルを考えるうえでは重要であると考えられる．この観点をもとに，現在までの報告書や計画書等の文献を分析し，表1にまとめた．

E-mail : Ryota Kitamura　k805521@kansai-u.ac.jp,　Keiichi KITAZUME　kitazume@kansai-u.ac.jp

表 1 各分野の課題と予測

分野	要素	課題と予測
国土形成	都市インフラ 1), 6), 8)	・基盤整備が高度成長期から1980年代に集中したため，一斉に更新時期を迎える ・国土交通白書では「今後致命的な損傷が発生するリスクが飛躍的に高まる」という警告
	交通 1)	・車の保有率の上昇に対応した道路網の整備・交通法規の改正 → 自動車は増えず，高齢者に他央した小型電気自動車等の普及や健康を意識した自転車の増加
	戸建てマンション 1)	・2013年に築50年以上のマンションが94万戸になる試算 ・新耐震基準策定前のマンションが現在106万戸
	土地の権利関係 1)	・日本の空家率は13%超であり，今後は新規住宅需要の減少 ・地方都市では空き家や駐車場のままの土地が多数出現 ・空き家は治安上の不安があり，生活環境にも悪い影響
産業育成	商業施設 1)	・消費者の減少に伴い商業施設も減少 ・都市部でさえも商店街が衰退 → 今後は「後期高齢者」のための宅配サービスや，日常の買い物が不便な地域での新たな商品供給システムが必要
	資源エネルギー 5)	・化学燃料はほぼ全量輸入 ・原発事故による火力発電への依存度の高まりが貿易収支・経常収支の悪化に → 新しいエネルギー生産方法が必要 徹底した省エネルギー政策
	グローバリゼーション 5)	・東アジアを中心に新興経済圏の成長が目覚ましい ・製造拠点の海外移転を進めたが国内生産が縮小 → 地方の工場閉鎖など地域の活力低下の原因となる
	ITCの進歩 5), 9)	・現状では医療関係のデータは存在するものの，それらが連結していない 例）1人の医療関係データをすべて連結することで，重複受診の防止や，保険給付状況把握など効率化が図れる
健康・保険・医療	財政 社会保障費 1)	・国の予算230兆円(一般会計：90兆円)に対して社会保障費は110兆円 ・社会保障費は年々増加中 → 国民の健康意識向上，社会保障制度の改善，財源確保(税収引き上げ？等)の必要性
	生命 3), 7), 9)	・2000年にWHO(世界保健機関)が「健康寿命」を提唱して以来，いかに健康寿命を延ばすかが重要 ・健康寿命を延ばすことで，医療費や介護費を減らす期待
	医療機関 7), 9)	・地方においては，病院の閉鎖や医師不足が大きな社会問題 ・医療の高度化・複雑化に伴う医療難易度の高まりや，事務作業の増加などによる労働条件の悪化が勤務医を疲弊させ医師不足
食・農林水産	地球環境問題 4), 5)	・地球温暖化の進行や生物多様性に危機 ・今世紀末には平均気温が4.4℃上昇し，降水量は約4割増加する予測
	食料自給率 5)	・海外からの輸入に大きく頼っている ・今後世界の人口は増加し，需要が伸びていく中で，日本がどのように食料を確保していくかが課題
	食の健康問題	・食品添加物問題（？）
	6次産業化 10), 11)	・農林水産業・地域の活力創造プラン」において，2020年までに6次産業化の市場規模を(現在の1兆円から)10兆円に増加」することを目標と掲げられている

5. 健康まちづくりにおける将来ライフスタイル像の提案

今回，健康まちづくりにおける将来のライフスタイル像を分析するにあたって，持続可能性に配慮したライフスタイル像を 2 パターン設定した．1 つは人々のウェルネスを追求する事を優先し，それに環境整備が追いかける形のライフスタイルである．これは，人の求めるウェルネスに応えるキャパシティが先に進み，それに追随して，将来世代に負荷を与えないキャパシティが追いつくものである．もう 1 つは環境整備を充実させることを優先し，それに合わせた人のウェルネスを追求するライフスタイルである．これは，将来世代に負荷を与えないキャパシティが先に進み，その後人の求めるウェルネスに応えるキャパシティが追いつくものである．その 2 つのライフスタイルに対して国土形成，産業育成，健康・保険・医療，食・農林水産の 4 つの観点かでどのようなライフスタイル像があるかを分析し，表 2 にまとめた．

表 2 健康まちづくりにおける将来ライフスタイル像

		人々のウェルネスを追求する事を優先したライフスタイル それを環境整備が追いかける	環境整備を充実させることを優先したライフスタイル それに合わせた人々のウェルネスを追求
分野	国土形成	・ニーズに合わせて，整備したインフラに見合う資源利用 ・自由な移動を支える交通基盤と手段の整備 ・ライフスタイルに合わせたスクラップ&ビルド方式の住宅	・財政，労働，材料の制約下でのインフラ整備 ・整備可能な交通基盤化手段の範囲で生活し，移動以外の手段で生活を支える ・リフォーム，リノベーションの範囲でのライフスタイル
	産業育成	・ニーズに合わせた生活を前提としたエネルギー供給 ・多様な買い物スタイルを支える ・ライフスタイルを支えるICT社会情報の価値を活かすネットワーク	・エネルギー制約下での生産計画，モノ不足を受け入れたスタイル ・商品提供を優先した将来モデル ・ICT技術水準を前提とした情報受け入れ型社会
	健康・保険・医療	・健康寿命を延ばすための技術開発を優先する社会 ・ニーズにあわせた医療制度や整備を優先する社会	・確保可能な保険財源化下での保険制度 ・限られた医療，看護，介護スタッフ下でのライフスタイル
	食・農林水産業	・世界の食料需要を前提とした生産計画 ・ニーズに合わせた食料輸入 ・グローバルスタンダード化した農林水産業	・食料生産制約を明示したライフスタイル ・食料自給率一定比率を前提としたライフスタイル ・地域(ローカライズ)に即した農林水産業の範囲での生活

6. おわりに

本研究では，フューチャーデザインセンターの考え方を取り入れ，健康まちづくりにおける将来ライフスタイル像を分析，提案を行った．今後は，フューチャーデザインセンターという場において専門家や住民が集まり，議論を行った上で，将来ライフスタイル像の確立に努めていきたい．

なお，本研究は，平成27年度関西大学先端科学技術推進機構研究プロジェクト「健康まちづくりのためのソーシャルデザイン」の研究成果の一部である．

参考文献

1) 東京大学 高齢社会総合研究機構：2030 超高齢未来，東洋経済新報社，2010.
2) 野村恭彦：フューチャーセンターをつくろう，プレジデント社，2014.
3) 総務省：医療分野における ICT の利活用に関する検討会報告書骨子案.
4) 古倉宗治：宇都宮共和大学シティライフ学シンポジウム転じて福のまちづくり講演「自転車によるエコなまちづくり」.
5) 国土交通省国土政策研究会：「国土のグランドデザイン 2050」が描くこの国の未来，大成出版，2015.
6) 清剛治・清家彰敏：社会資本の老朽化・陳腐化の動向と課題，2010.
7) 高野健人：健康都市プロジェクト，日衛誌 57, 475－483.
8) 国土交通省：国土交通白書，2015.
9) 厚生労働省：健康・医療・介護分野における ICT 化の推進について.
10) 農林水産省：平成 26 年度 食料・農業・農村の動向.
11) 農林水産省：人口減少社会における農村の活性化 特集.
12) 西條辰義：フューチャーデザイン，勁草出版，2015.